



# 2021年3月期第2四半期 決算発表資料

2020年11月12日

**TBS** 株式会社

# 目次 1 / 2

## 1. 連結決算

- (1) 連結対象会社
- (2) 連結経営成績
- (3) セグメント別業績
- (4) 連結財政状態
- (5) 連結キャッシュフロー
- (6) その他の情報
- (7) 2021年3月期の連結・個別業績予想

# 目次 2 / 2

## 2. 単体決算

(1) 単体決算

(2) 特別損失に関する説明

(3) 個別財政状態

(参考) J N C(株)連結業績

J N C(株)個別業績

J N C(株)2021年3月期の業績予想

## 3. その他

# 1. 連結決算

# 1. 連結決算 (1) 連結対象会社

連結子会社 25社、持分法適用会社 17社の計 42社

連結子会社 25社		
JNC	JNC開発	商事事業
機能材料事業	オージェイケイ	日祥
JNCマテリアル	JNCフィルター	電力事業
CSエナジーマテリアルズ	広州ES繊維	市原ソーラー
韓国JNC	捷恩智無紡材料(常熟)	その他の事業
台湾捷恩智股份	捷恩智繊維貿易(上海)	JNCエンジニアリング
捷恩智液晶材料(蘇州)	JNC Nonwovens(Thailand)	捷恩智(上海)企業管理
加工品事業	化学品事業	
JNCファイバース	JNC石油化学	
九州化学工業	千葉ファインケミカル	
ジェイカムアグリ	JNC North America Corp	
サン・エレクトロニクス	JNC America	
持分法適用会社 17社		
機能材料事業	ESFV(香港)	その他の事業
第三化成	ESFV(タイ)	サンワ工事
加工品事業	ESFV(上海)	JNC環境
ESFV(日本)	ESFV(蘇州)	アール・ビー・エス
ESFV インク	化学品事業	JNCセントラル
ESFV(米国)	日本ポリプロ	
ESFV ホールディングス	京葉ポリエチレン	
ESFV(欧州)	シージーエスター	

# 1. 連結決算 (2) 連結経営成績

	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	対前年同四半期 増減
売上高	73,383百万円	61,826百万円	△11,557百万円 (△15.7%減収)
営業利益	△384百万円	1,766百万円	+2,150百万円 (増益)
経常利益	△1,021百万円	1,245百万円	+2,266百万円 (増益)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	△6,923百万円	△1,227百万円	+5,696百万円 (増益)

## 参考) ナフサ価格の推移

2019年4～6月	45,400円/KL
7～9月	40,200円/KL
10～12月	41,300円/KL
2020年1～3月	44,800円/KL
4～6月	25,000円/KL
7～9月	30,300円/KL

## 参考) 為替の推移

	期中平均	期末
2019年1～3月	110.3円/USD	111.0円/USD
4～6月	109.7円/USD	107.8円/USD
7～9月	107.7円/USD	107.9円/USD
10～12月	109.3円/USD	109.6円/USD
2020年1～3月	109.1円/USD	108.8円/USD
4～6月	107.4円/USD	107.7円/USD
7～9月	105.3円/USD	105.8円/USD

**(参考) 第2四半期決算  
連結売上高・経常利益推移 (2011年度～2020年度)**

(百万円)

年度	売上高	経常利益	年度	売上高	経常利益
2011年	110,531	7,361	2016年	72,066	783
2012年	96,118	3,178	2017年	75,317	2,954
2013年	111,075	6,723	2018年	73,201	243
2014年	85,353	7,159	2019年	73,383	△1,021
2015年	86,806	7,374	2020年	61,826	1,245



# (参考)第2四半期決算 連結業績推移

売上高：百万円

■ 売上高

— 経常利益

経常：百万円

120,000

8,000

100,000

7,000

80,000

6,000

60,000

5,000

40,000

4,000

20,000

3,000

0

2,000

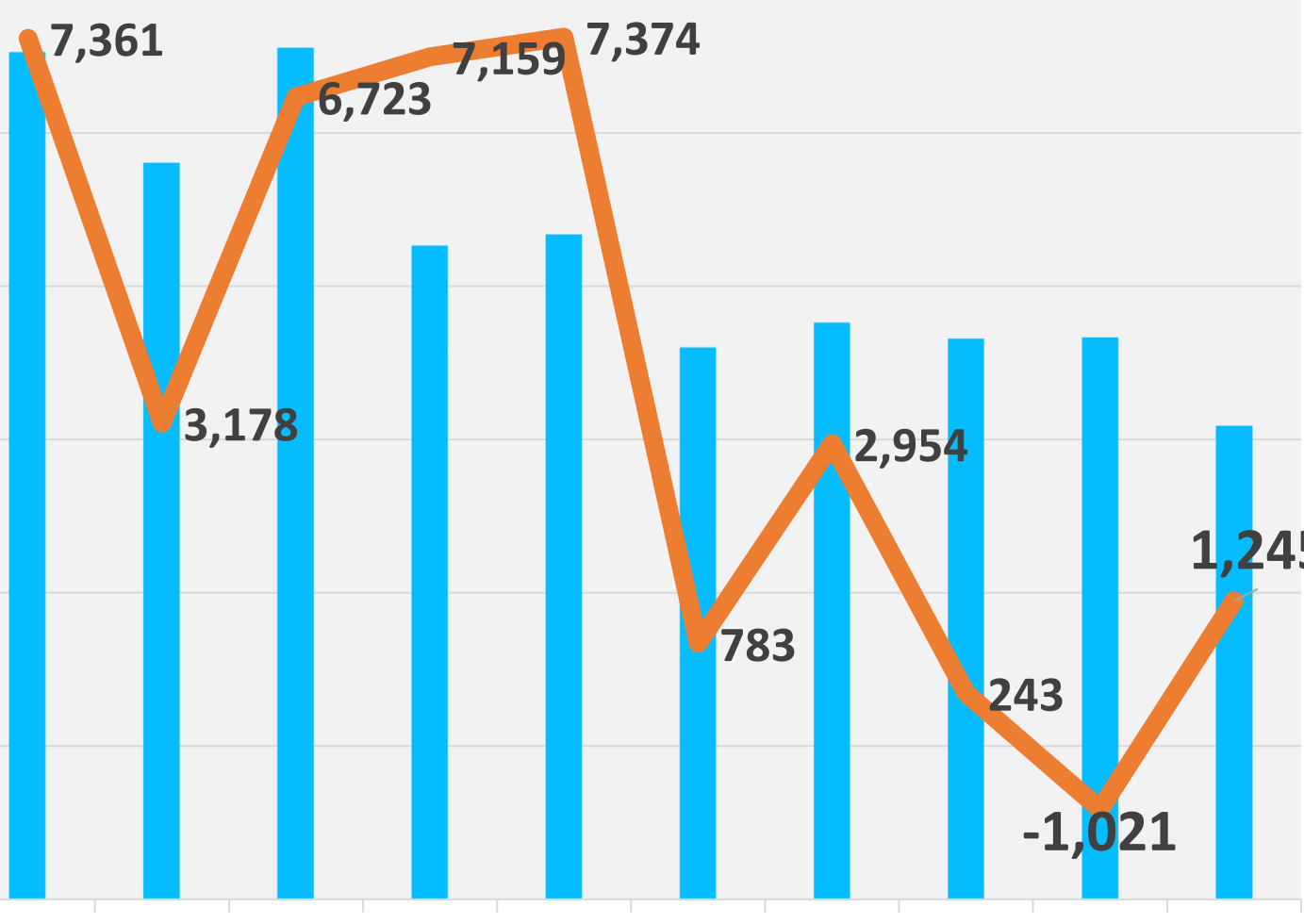
1,000

0

-1,000

-2,000

2011年 2012年 2013年 2014年 2015年 2016年 2017年 2018年 2019年 2020年



**(参考) 年度決算  
連結売上高・経常利益推移 (2010年度～2019年度)**

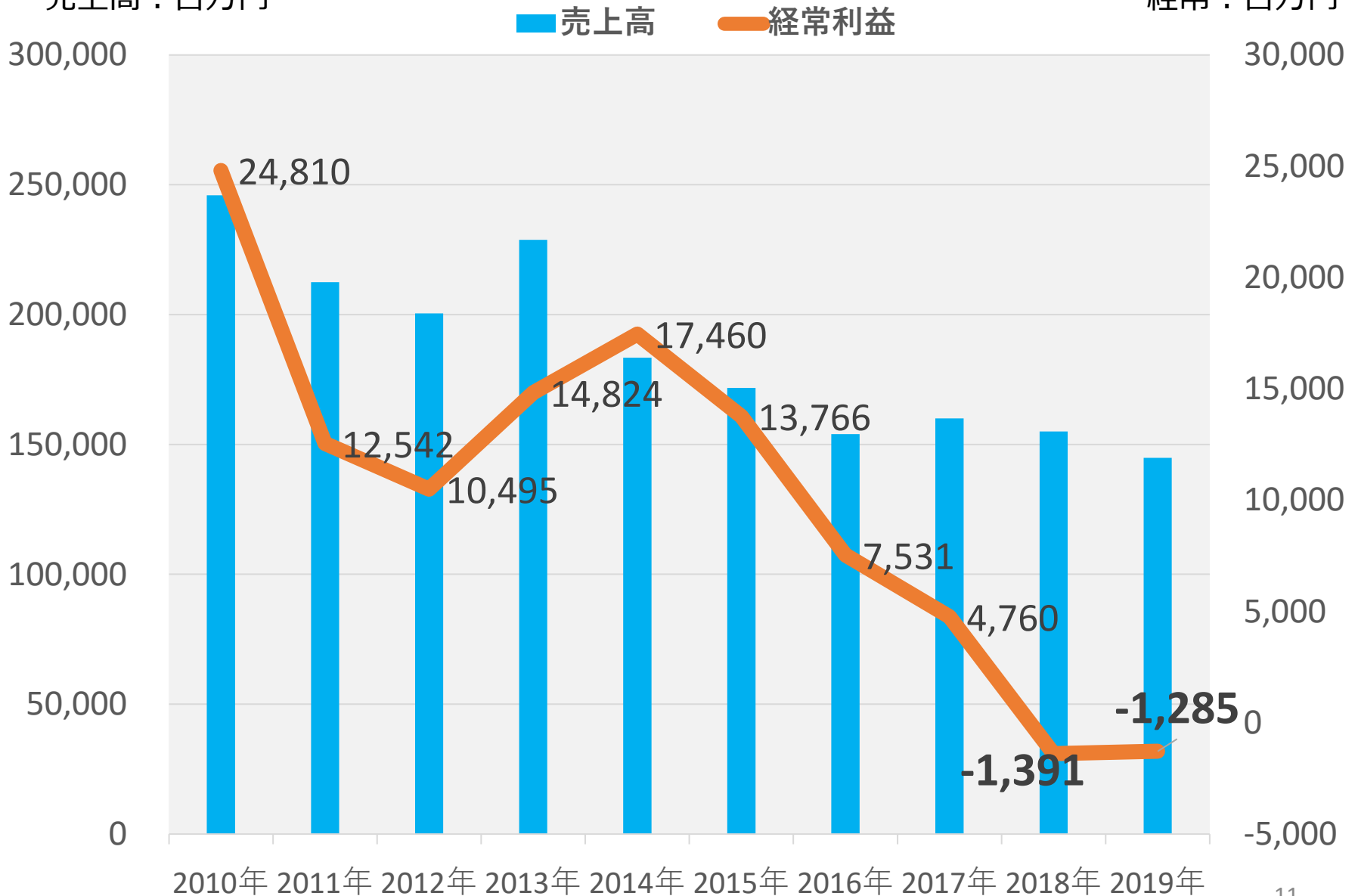
(百万円)

年度	売上高	経常利益	年度	売上高	経常利益
<b>2010年</b>	245,958	24,810	<b>2015年</b>	171,776	13,766
<b>2011年</b>	212,430	12,542	<b>2016年</b>	153,999	7,531
<b>2012年</b>	200,448	10,495	<b>2017年</b>	159,984	4,760
<b>2013年</b>	228,824	14,824	<b>2018年</b>	155,025	△1,391
<b>2014年</b>	183,364	17,460	<b>2019年</b>	<b>144,852</b>	<b>△1,285</b>

# (参考) 年度決算 連結業績推移

売上高：百万円

経常：百万円



# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

単位：百万円

	2019/2Q	(2019/4Q)	2020/2Q	前年同期比	増減率
機能材料	15,447	(26,119)	11,523	△3,924	△25%
加工品	27,702	(58,615)	26,211	△1,491	△5%
化学品	12,800	(28,112)	9,104	△3,696	△29%
商事	10,981	(21,004)	8,151	△2,830	△26%
電力	3,150	(5,956)	3,833	+683	+22%
その他	3,301	(5,042)	3,003	△298	△9%
<b>連結売上高</b>	<b>73,383</b>	<b>(144,852)</b>	<b>61,826</b>	<b>△11,557</b>	<b>△16%</b>

	2019/2Q	(2019/4Q)	2020/2Q	前年同期比	増減率
機能材料	△1,580	(△3,115)	△886	+694	+44%
加工品	250	(1,460)	1,410	+1,160	+464%
化学品	56	(456)	△981	△1,037	-
商事	139	(345)	146	+7	+5%
電力	1,072	(1,599)	2,138	+1,066	+99%
その他	64	(223)	86	+22	+34%
<b>連結経常利益</b>	<b>△1,021</b>	<b>(△1,285)</b>	<b>1,245</b>	<b>+2,266</b>	<b>-</b>

# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

## 機能材料事業 (液晶材料等)

	2019/2Q	2020/2Q	前年同期比	増減率
連結売上高	154.5億円	115.2億円	△39.3億円	△25%
連結経常利益	△15.8億円	△8.9億円	+6.9億円	+44%

液晶材料は、新型コロナウイルス感染症に起因する巣籠り需要により、モニター、モバイル等の中小型ディスプレイ用途の販売は引き続き堅調となりましたが、大型テレビ市場は第1四半期における需要減少の影響から復調には至らず、売上は低調となりました。

一方、競争が激化する中で当社は低コスト品の拡販や固定費削減を進めてきた結果、大幅に減収となりましたが増益となりました。

# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

## 加工品事業（繊維製品、肥料）

	2019/2Q	2020/2Q	前年同期比	増減率
連結売上高	277.0億円	262.1億円	△14.9億円	△5%
連結経常利益	2.5億円	14.1億円	+11.6億円	+464%

繊維製品は、除菌シート、マスク等の新型コロナウイルス感染症対策関連の需要が国内外ともに引き続き旺盛となり、原綿及び不織布の出荷が伸長し、売上は増加しました。また、品質、価格など市場ニーズへの対応、スプレッドの確保、コスト削減等を進めてきた結果、増収増益となりました。

肥料は、施肥作業の省力化が評価されている被覆肥料の出荷が堅調となりましたが、顧客の在庫調整の影響により化成肥料の出荷が低調となったほか、海外需要が落ち込み、売上は減少しました。また、在庫販売につきましても販売価格に対し相対的に原価の高い在庫の販売となったため利幅が圧縮し、減収減益となりました。

# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

## 化学品事業 (アルコール、樹脂等)

	2019/2Q	2020/2Q	前年同期比	増減率
連結売上高	128.0億円	91.1億円	△36.9億円	△29%
連結経常利益	0.6億円	△9.8億円	△10.4億円	—

オキシアルコールは、原料ナフサ価格の急落を受けて販売価格が低下したことに加え、生産設備の大型定期修理の実施により出荷が減少したことから、売上は低調となりました。ポリプロピレンは、新型コロナウイルス感染症の影響により主力の自動車関連の需要が低迷し、出荷が減少しました。

一方、新型コロナウイルス感染症対策関連の需要が急速に拡大し、治療薬やワクチン製造向けに一部製品の販売が増加しましたが、全体としては持分利益が減少した影響を受け、大幅な減収減益となりました。

# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

## 商事事業

	2019/2Q	2020/2Q	前年同期比	増減率
連結売上高	109.8億円	81.5億円	△28.3億円	△26%
連結経常利益	1.4億円	1.5億円	+0.1億円	+5%

商事事業は、化学品事業と同様に自動車関連の需要が低迷し、主力のポリプロピレンの販売が低調となったことなどにより売上は減少しましたが、固定費削減の効果等により大幅な減収ながら若干の増益となりました。



# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

## 電力事業

	2019/2Q	2020/2Q	前年同期比	増減率
連結売上高	31.5億円	38.3億円	+6.8億円	+22%
連結経常利益	10.7億円	21.4億円	+10.7億円	+99%

電力事業は、F I T（再生可能エネルギー固定価格買取制度）活用に向けた既存水力発電所の大規模改修工事を引き続き推進し、安定した収益基盤の強化に注力しました。

また、一部の水力発電所において、令和2年7月豪雨により被害を受け一時稼働を停止しましたが、その他の各発電所は順調に稼働しました。

当第2四半期連結累計期間においては、4月に白川発電所で改修工事が完了し商業運転を開始しました。今年9月末においては計8箇所の水力発電所でF I Tを活用した発電を行っております。

# 1. 連結決算 (3) セグメント別業績

## その他の事業 (エンジニアリング等)

	2019/2Q	2020/2Q	前年同期比	増減率
連結売上高	33.0億円	30.0億円	△3.0億円	△9%
連結経常利益	0.6億円	0.8億円	+0.2億円	+34%

エンジニアリング事業は、前年同四半期に石油化学関連設備に係る大型案件の進捗があった反動により、売上は減少しましたが、新型案件の受注は堅調となり、減収増益となりました。

# 1. 連結決算 (4) 連結財政状態

	2020年3月期	2021年3月期 第2四半期	前連結会計 年度末比
総資産	251,761百万円	236,552百万円	△15,209百万円 (△6.0%)
純資産	△130,788百万円	△131,849百万円	△1,061百万円
自己資本比率	△56.8%	△60.8%	—
1株当たり純資産	△918円29銭	△923円62銭	—

当第2四半期連結会計期間の資産は、主に流動資産の減少により前連結会計年度末に比べ152億9百万円減少し、2,365億52百万円となりました。これは主に現金及び預金と、受取手形及び売掛金の減少によるものです。

当第2四半期連結会計期間の負債は、前連結会計年度末に比べて141億48百万円減少し、3,684億1百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金と、未払金の減少によるものです。当第2四半期連結会計期間の純資産は、利益剰余金などが減少したことにより、前連結会計年度末に比べて10億61百万円減少し、△1,318億49百万円となりました。

# 1. 連結決算 (5) 連結キャッシュフロー

## 営業活動によるキャッシュ・フロー (51億5百万円)

営業活動によって得られた資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ18億60百万円(26.7%)減少の51億5百万円となりました。

## 投資活動によるキャッシュ・フロー (60億16百万円)

投資活動によって使用された資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ6億54百万円(12.2%)増加の60億16百万円となりました。

## 財務活動によるキャッシュ・フロー (37億73百万円)

財務活動によって使用された資金は、前第2四半期連結累計期間に比べ25億78百万円(215.8%)増加の37億73百万円となりました。

# 1. 連結決算 (5) 連結キャッシュフロー

## 水俣病補償によるキャッシュ・フロー（10億97百万円）

水俣病補償によって使用された資金は、10億97百万円となり内訳は以下のとおりです。

	患者医療費等	8億16百万円
	公的債務返済	66百万円
	解決一時金返済	2億15百万円
	救済一時金収支	0百万円
	計	10億97百万円

## 現金及び現金同等物期末残高

236億35百万円（前年度末比58億65百万円減少）

# 1. 連結決算 (6) その他の情報

## 水俣病被害者への一時金の支払について

水俣病被害者救済等のための「特別措置法」（平成21年法律第81号）に基づく当社の2020年4月1日以降、2020年9月30日までの一時金支払額は合計2百万円です。

2014年8月29日に環境省より、救済措置対象者の判定が熊本県及び鹿児島県で終了した旨の公表がなされておりますが、一時金支払いは継続しております。

# 1. 連結決算 (6) その他の情報

## 水俣病訴訟の提起について

水俣病に罹患しているとする原告から、当社、国及び熊本県に対して熊本地方裁判所及び東京地方裁判所、大阪地方裁判所に損害賠償請求訴訟が提起されております。

2013年6月20日以降数次にわたり、2020年9月30日までに水俣病不知火患者会に属する原告等合計1,687名から行なわれた提訴の損害賠償請求金額は合計7,591百万円となっております。

# 1. 連結決算 (6) その他の情報

## 水俣病訴訟の控訴提起について

2007年10月11日に水俣病被害者互助会に属する8名の原告（第一審原告）から、当社、国及び熊本県に対して熊本地方裁判所へ提起された損害賠償請求訴訟について、2014年3月31日に原告3名の請求の一部を認容する判決があり、当社はこの判決を不服として福岡高等裁判所に控訴し、また、原告側も控訴しておりました。この控訴審について2020年3月13日に判決があり、第一審判決の被告である当社及び国、熊本県の敗訴部分を取り消し、第一審原告らの各請求、各控訴及び控訴審における拡張請求のいずれも棄却するものとなりました。

なお、第一審原告らはこの判決を不服とし、2020年3月23日に最高裁判所へ上告を行なっております。



# 1. 連結決算（7）2021年3月期の 連結・個別業績予想

## ① チッソ連結業績予想

売上高	1,320億円
経常利益	1億円
親会社株主に帰属する当期純利益	－億円

## ② チッソ個別業績予想

売上高	－億円
経常利益	0億円
当期純利益	－億円

通期（連結）の親会社株主に帰属する当期純利益及び通期（個別）の当期純利益につきましては、水俣病関連損失及び令和2年7月豪雨により被災した、当社グループが保有する一部水力発電所の復旧費用等の予想が困難であることから、引き続き未定としております。

## 2. 单体決算

## 2. 単体決算 (1) 単体決算

**売上高**：JNCへ事業移管によりゼロであります。

**営業利益**：2億8百万円の損失

チッソのコーポレート部門の人件費及び経費が発生しています。

**経常利益**：3億12百万円の損失

営業外費用として金融機関への支払利息、患者センター及び水俣病被害者救済支援財団の運営費用が発生しています。

**純利益**：18億28百万円の損失

## 2. 単体決算 (2) 特別損失に関する説明

特別損失および未処理損失は次の通りです。

単位未満切捨て

<b>特別損失</b>		<b>15億32百万円</b>
水俣病被害者救済一時金		2百万円
水俣病補償関係		15億30百万円
(内訳)	補償金等	8億16百万円
	公的融資金利	40百万円
	解決一時金金利	1億17百万円
	救済一時金金利	5億56百万円

<b>未処理損失</b>		<b>1,876億円</b>
(内訳)	水俣病関係損失累計額	4,095億円
	事業活動による利益	2,219億円

## 2. 単体決算 (2) 特別損失に関する説明

<b>認定患者</b>		0名
<b>公的債務残高の状況 (2020年9月末)</b>		<b>1,971億円</b>
(内訳)	元本	1,912億円
	金利	59億円
<b>当期の公的債務返済状況</b>		
<p>約定弁済額2億68百万円に対して、自己資金による返済額は66百万円であり、不足分の2億2百万円につきまして支援措置を講じて頂きました。</p> <p>また、救済一時金19億86百万円につきましては全額支払猶予措置を講じて頂きました。</p>		

## 2. 単体決算 (3) 個別財政状態

	2020年3月期	2021年3月期 第2四半期	前年度末比
総資産	65,988百万円	62,966百万円	△3,022百万円
純資産	△177,014百万円	△178,842百万円	△1,828百万円

- 総資産：主に未収配当金の減少によるものです。
- 純資産：当期純損失の分だけ純資産が減少しました。

## 参考. JNC(株)連結業績

	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	対前年同四半期 増減
売上高	73,383百万円	<b>61,826百万円</b>	△11,557百万円 (△15.7%減収)
営業利益	△185百万円	<b>1,974百万円</b>	+2,159百万円 (増益)
経常利益	△709百万円	<b>1,557百万円</b>	+2,266百万円 (増益)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	△5,172百万円	<b>600百万円</b>	+5,772百万円 (増益)

## 参考. JNC(株)個別業績

	2020年3月期 第2四半期	2021年3月期 第2四半期	対前年同四半期 増減
売上高	31,597百万円	<b>23,976百万円</b>	△7,621百万円 (△24.1%減収)
営業利益	△1,888百万円	<b>△714百万円</b>	+1,174百万円 (増益)
経常利益	△577百万円	<b>△56百万円</b>	+521百万円 (増益)
四半期純利益	△689百万円	<b>△266百万円</b>	+423百万円 (増益)



## 参考. JNC(株)2021年3月期の業績予想

### ① JNC連結業績予想

売上高	1,320億円
経常利益	7億円
親会社株主に帰属する当期純利益	-億円

### ② JNC個別業績予想

売上高	515億円
経常利益	12億円
当期純利益	-億円

通期（連結）の親会社株主に帰属する当期純利益及び通期（個別）の当期純利益につきましては、令和2年7月豪雨により被災した、当社グループが保有する一部水力発電所の復旧費用等の予想が困難であることから、引き続き未定としております。

# 3. その他

### 3. その他 「アビガン®錠」の中間体製造供給について

4月27日リリース

政府による抗インフルエンザウイルス薬「アビガン®錠」200万人分の備蓄要請に応えるため、当社子会社のJNC(株)は、富士フイルム(株)より早い段階で中間体製造協力要請のお話をいただき準備を進め、水俣製造所の既存プラントを活用して4月末より「アビガン®錠」の中間体受託製造を行ってまいりました。

※「アビガン®錠」は富士フイルム富山化学株式会社の登録商標です。

※医薬中間体とは製薬工程において原料から薬までの途中で製造される化合物です。

●計画されていた数量については全て製造し納品を完了しました。

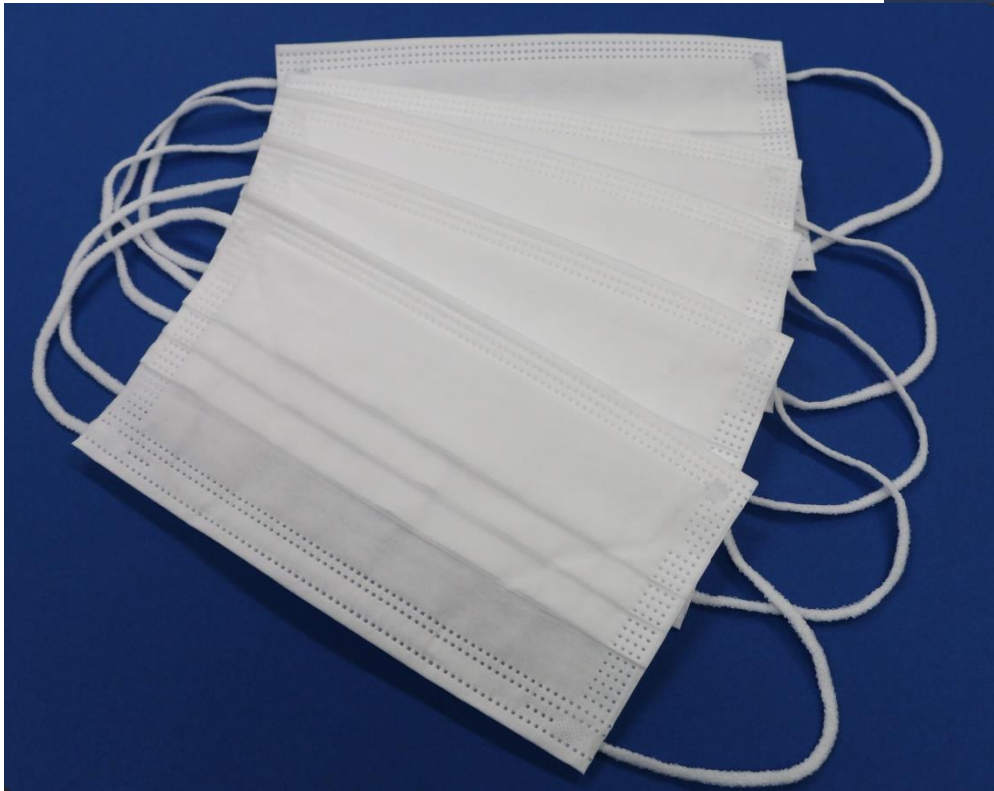
### 3. その他 マスク用不織布およびマスク生産開始について

当社子会社のJNCファイバース(株)守山工場では、既存のメルトブロー不織布製造設備を改造し、マスクに必要な捕集性を付与したメルトブロー不織布を製造しています。

またJNC石油化学(株)市原製造所では、新たに不織布マスク製造設備を導入し、守山工場で生産するスルーエア不織布とメルトブロー不織布を用いて、不織布マスクの生産を開始しています。

当社は不織布マスクに必要な全ての部材を国内で調達するため、高品質な不織布マスクの安定供給に寄与します。

製 品	メルトブロー不織布(ELFino)	不織布マスク
生産場所	JNCファイバース(株)守山工場	JNC石油化学(株)市原製造所
生産能力	マスク440万枚相当/月	135万枚/月
生産開始	2020年10月	2020年9月
販売開始	2020年11月	2020年10月



### 3. その他 水力発電によるエネルギーの地産地消の実現でSDGsを推進

当社子会社のJNC(株)は、水俣市、JFEエンジニアリング株式会社との三者共同事業として、「水力発電を中心とした電源による水俣市施設への電力供給」に関する協定を締結し、2020年8月より電力供給を開始しました。

当社子会社のJNC(株)が熊本県内で運営する水力発電所のうち6箇所の電力を自営線により送電し、水俣製造所にて消費した後、その余剰電力の一部を水俣市内の小中学校を含む公共施設（15施設）に供給しています。

JFEエンジニアリング株式会社の子会社アーバンエナジー株式会社は電力需給管理とともに、渇水期等で電力が不足する際の補填も担います。

三者は本スキームによる実証試験を2017年度より市役所仮庁舎を対象に開始しており、電気料金の削減のみでなく、非化石証書によるCO2排出係数ゼロの実現も確認できたことから、今回の供給先拡大に至りました。

以上